

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872300419		
法人名	有限会社 豊地質		
事業所名	グループホーム ゆたかの郷		
所在地	兵庫県三木市宿原1263-86		
自己評価作成日	平成25年7月8日	評価結果市町村受理日	2013年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成25年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、敷地内の菜園や畑で、無農薬、有機野菜をつくっており、食材として提供しています。
 2、毎年クリスマスリースを、職員と入居者全員で協力して作り(平成24年度実績520個位)、ご家族、近隣、幼稚園、他の施設、病院、支援センター、市長室、などいろいろなところにプレゼントしています。また、東日本大震災後は、復興支援として南三陸町・釜石市・気仙沼の病院などにメッセージを添えお送りしました。
 3、法人社長が自治会役員をしている、地域のボランティアの方と交流の場を持つなど地域とのかかわりが深いことです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の庭の一角の鶏小屋に、チャボの一家が住んでいる。ひよこが生まれたり、毎日卵を産んだりするのを利用者と共に楽しみにしている。近所の方が入居されたことで、地域との連携が深まり、区長さんが運営推進会議にも新たに参加。ボランティアの訪問も増え、地域の一人として、自然豊かな土地でともに支え合って生活している。施設で栽培する無農薬の野菜や、地方から送られる豊かな食材で、手作りの食事が提供され、利用者の楽しみとなっている。ケアマネジャーが市のケア研究会の役員をやり始め、他施設や行政、他分野とのつながりが深まり、事業所にも新しい風が送り込まれ、今までは全員で外出していたが、個別外出も始めたり、職員にも外部研修に受講を勧めていくようになった。今後も調和を大切にするケアの継続と更なる新しい取り組みで質の向上に取り組みされるよう期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が安心して、自分らしく暮らせる馴染みの場所となるために、他事業所と比べ、同じ職員が関わられる時間が多い特性を生かしたケアを日々実践しています。	家庭的な環境の中でその人の持てる力を大事に、寄り添いながら支援していくことを理念としている。利用者の日々の様子観察を大切に、毎朝のミーティングで共有し、理念に基づいた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回程度、地域ボランティアの方々と演奏会を催す、事業所の菜園でできた野菜を近隣の方にお届けして喜んでいただいているなどのお付き合いをしています。	朝の散歩で地域の方と挨拶を交わしている。三木市の「ボランティアポイント」の協力事業所になり、話し相手や大正琴、歌等のボランティアの訪問が始まった。自治会の高齢者の集いにも出席し、地域との交流の幅が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や定期的な演奏会などの場で研修や日頃の実践の経験から得たことを事例として説明して、認知症の方に対する理解を深めていただく。相談に来られた方には専門職の知識を生かしたアドバイスをするなどの支援をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や、地域の方々の意見を参考に、職員全員で話し合い実践に生かしています。また、出席してくださる市職員の方と地域情勢などの情報交換をしています。	地域包括、区長、民生委員、地域住民、家族代表、事業所職員が出席し定期的に開催。参加者間で情報交換を行い、他地区の取り組みや事業所から地域への情報提供等の話し合いがなされている。会議の場を利用して避難訓練を行ったり、会議後、参加者と利用者が一緒に食事しながらふれあう機会も作っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告は迅速に行い、運営推進会議に出席してくださる市職員の方と情報交換をして連携しています。	市職員が運営推進会議に出席。事業所のケアマネが市の高齢者のケア研究会の役員をやっており、行政との連携も深まり、事業所の実情も伝え、相談しやすい関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で、身体拘束をしないケアの実践のために、いかに入居者の安全を確保するかを日頃から話し合っております。	マニュアルを整備し、拘束を行わないケアについて話し合っている。入浴等手間のかかる時間帯は職員を増やして適切な対応を心がけている。玄関の施錠も含め、拘束は行っていない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が人権を尊重する旨を理解しており、アットホームな事業所作りに努めています。	理念に添って利用者が安心して過ごせるよう、虐待防止について話し合っているが、職員への研修は行っていない。職員間で、疑問点など常に話し合い意思の疎通を図ったり、職員の家庭の事情に配慮した働きやすい環境作りにも努めている。	虐待防止の徹底とケアの質の向上の為に、是非職員の研修の機会を設けていただきたい。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はパンフレット等を使用して制度を学び、入居者のご家族が必要ではと感じた場合は、ミーティングで協議しています。また、事業所の目につきやすいところに市の相談案内を提示しています。	事業所の内部研修で権利擁護制度について学ぶ機会を持っている。以前に活用していた利用者もあり、制度の有効性を実感している。現在も必要性があるが、事業所独自の働きかけでは導入が難しい方がいる。	運営推進会議において議題とし、制度活用に向けた話し合いをされてはいいか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず管理者と担当者の2名で面談し、十分な時間を持って説明しています。	重要事項説明書と契約書をもとに、わかり易い言葉で事例を挙げ、十分時間をかけて説明している。見学に来てもらい、全体の雰囲気を感じてもらっている。有料で体験利用も可能。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは常に、コミュニケーションを図り、家族等とは、花便りや手紙、電話等で密に連絡を取り、意見を運営に反映するようにしています。また、直接言いにくい方の為に、2カ月ごとに無記名の家族意見書を返信用封筒を同封しお送りしています。	家族来訪時や便り、アンケートなどで、意見や要望を聞き取るよう努めている。特に運営に反映させる意見等は出されていない。運営推進会議に家族が交替で1人参加している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所兼自宅なので、管理者が常駐し職員と意見交換を行いやすい環境になっており、意見交換の中で良い案があったら速やかに実践しています。	朝のミーティングや日常の業務の中で、職員から意見が出される。利用者中心の職員のシフトの変更や、新聞記事の切り抜きをもとに、利用者の症状や対応等について提案があり、検討する等の取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が常駐しているので職員個々の状態を把握できています。家庭の事情に合わせて休暇を与えるなど職場環境の向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を行っている事業所から、研修開催に関する情報をファクスで受け入れる体制をとっており、情報が届いたときには、職員に研修の参加を勧めています。また対応が困難な入居者の介助方法を管理者自ら実践して、職員のケアの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社長は日本グループホーム協会兵庫県支部の理事を務め、職員の1人は三木市高齢者ケア研究会ケアマネ部会の役員を務めるなど同業者と交流できる環境を整えています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者への面会時、入居時の不安を少しでも軽減できるように、必ず面会は職員2名で行い、より多くの情報収集ができるよう努めています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に出来る限りの時間をとって、家族との面会を重ね、情報収集を行いながら、ホームの生活等を説明し、信頼関係づくりをし、入居後は頻繁に電話連絡をして安心していただけるよう努めています。。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面会で得られた情報と担当のケアマネと必ず面談しているので、そこから得られた情報をもとに、その方にとって最も適切なサービスは何かを職員間で話し合っています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除やリース作りなどの作業を行うときや、食事、おやつのはきは、必ず職員が入居者と一緒に行い関係性の向上に努めています。また、一人ひとりのアルバムを作り、職員と共に過ごしていることが分かるようにしています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や家族意見書で家族の意見を取り入れるように努め、介護計画書を作成するときは必ず事業所に来ていただいて本人と面会していただくなど、本人と家族の絆を大切にしながら、支えていける関係を築いています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何年かぶりに面会された家族の連絡先をお聞きし、本人の写真添えた手紙を出すなどして、関係が途切れないように努めています。また、本人が行きたい場所に行くことが困難な場合は、故郷の品を本人の代わりに持ち帰る、景色の写真を撮って、お見せするなどしています。	生活歴の聞き取りや入居後の会話の中の言葉から、馴染みの関係を把握し、関係継続の支援に努めている。本人が行きたい場所に行けなくても、職員が代わりに訪問し、写真と海岸の石を持ちかえったり、偶然の出会いがあった時も、その後の関係が途切れないよう支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、入居者同士の関係をよく観察して、食堂やリビングの席順を考慮し、孤立せずに入居者全員が家族のように過ごせるよう支援しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の情報収集を常に心がけ、情報を得た時には、電話をするなどして、関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画を作成するときは、可能な限り本人の希望、意向を確認するように努め、困難な場合は、本人の日頃の様子をよく観察して、本人がよりよく暮らせるように努めております。	ケアマネジャーがアセスメントを行い、職員間で日頃からの観察を中心に利用者の思いや意向を把握している。把握困難な方は動作や表情から思いを汲み取っている。ちょっとした変化にも、気づきを職員間で共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず担当ケアマネから情報提供をしてもらい、入居後は本人との会話や家族の面会のときの思い出話を傾聴し、新たな情報が得られたら記録をするなど、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、ささいな情報でも共有して把握に努めております。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れ、主治医、訪問看護師と相談して、職員全員で話し合ってから介護計画を作成しています。	家族と必ず面談し、本人、家族の要望をもとに、ケアカンファレンスを開き、介護計画を作成している。医療ニーズのある方は、医師や訪問看護師の意見を参考にしている。少しでも生活しやすくなるよう配慮し、達成可能な目標を立てている。モニタリング、計画の見直しは原則半年。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌は毎日記入し、毎朝ミーティングを行い情報を共有しています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所や地域の自治会と情報交換するなどして、さまざまなニーズに柔軟な対応ができるよう努めています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々や他の事業所と情報交換し、地域資源の把握に努めています。また、本人の豊かな暮らしにつながる地域資源があれば、利用できるかを検討しています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医との関係が途切れないように、交通手段がない方には、可能な限り送迎を行い、また、かかりつけ医と事業所が協力して、本人に快適な生活を提供できるように、情報提供用紙の提出や必要な時は、受診の付き添いをしています。	8名中2名が掛かりつけ医を受診し、往診も受けている。他は嘱託医である近医が担当している。外部受診は基本的には家族対応となるが、その場合でも必要な情報を提供し、今後の対応を確認するため必ず職員が同行している。週一回の訪問看護の体制も取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来られる訪問看護師に、日常の関わりの中でとらえた情報や気づき、素朴な疑問などを相談して、適切な看護を受けられるように支援しています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療できるように、できるだけ早期に退院できるように、必ず職員が付き添い病院関係者に情報提供をし、入院後は定期的に面会に行き情報交換、相談をしています。また、病院関係者に定期的にあいさつ回りをして関係づくりを行っています。	入院中は入居者の不安軽減と状況確認のため殆ど毎日面会に行っている。リクライニングの車いすを購入したり、訪問リハビリも導入するなど、退院後の体制を整え、早期退院に繋げたこともある。ケアマネが介護職を兼ねているため、具体的な情報共有がし易い環境となっている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望を聞き入れて可能な限り事業所で生活していただくように努め、重度化しても、本人に快適に過ごしていただくため主治医、訪問看護と協力する、地域資源を検討するなど、チームとして支援に取り組んでいます。	本人、家族の思いを優先し、重篤な状態になっても可能な限り対応している。家族と話し合いながら、ギリギリまで入院を避ける場合が多い。ただ入浴等の設備面での対応が難しくなった場合や、医療的なニーズが高くなった場合が課題となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が応急手当普及員の資格を取得して随時、応急手当の訓練を行い、急変時、緊急時の対処方法表を、目に付くところに設置しています。また、入居者の状態の変化に気づいたときは職員全員で、急変時の対応を話し合っています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、近隣住民へも災害時の協力を要請して、緊急連絡網に電話番号を記載させていただいています。また、消防署員に来ていただき災害時の対応の勉強会を行いました。	消防訓練は年二回実施。地域からの協力や意見を得たいと、運営推進会議の中で訓練を実施する試みもしている。非常階段には滑らないように塗料を塗り直し、安全で素早い避難のために「おんぶ紐」を常備、スリッパではなく滑り止め付きの靴下を履いてもらう、等の様々な工夫もしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で、入居者の話をする時は、イニシャルで入居者を呼ぶ、排泄の介助の際、周りの入居者に聞かれないように、席を離れてから声かけをするなど、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけています。	目立たずさり気無い対応を心掛けている。排泄に関しては、利用者の誇りに配慮し、職員間でのみ通じる言葉を取決めている。また立位でのオムツ交換は必ず背後から行うなど、日々の具体的な支援の中で細々とした配慮を行い、尊厳やプライバシーを守っていきたいと考えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、何か行動を起こそうとする時は、とりあえず見守りをするよう心がけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除等の作業を行う時、参加に消極的な場合は、無理に参加を促さず、本人が自発的に参加してくるまで見守りをする等、一人ひとりのペースを大切に支援に努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれを大切にしつつ、入居者全員との調和が保たれるように支援しています。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、事業所の菜園でできた野菜を利用するとき事前説明する、入居者全員が盛り付け、台拭き、お箸配り、配膳の出来ることを役割分担して、食事を行っています。	近隣からのおすそ分けや、栽培している野菜、自然から採取したもの、また飼育しているチャボの卵など、潤沢に手に入る季節の食材で全て手作りしている。調理前にはそれらを必ず利用者に見せて説明、一緒に食べながらも再度伝え、楽しんで味わって食事できるよう心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の観察から得た情報、体重、主治医に相談したことなどを考慮して、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた、食事内容、水分摂取量を提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしています。また定期的に歯科の往診を受けております。			

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、失禁する前に、トイレ誘導する等、排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援しています。また、入居され始めのとき、表示板を使用してトイレの場所を覚えていただくようにしています。	自立は一人。排泄パターンを細かく記録し、昼間は必ずトイレ誘導している。夜間は熟睡している場合には無理には起こさないようにしている。新規の入居者がトイレの場所が分からず戸惑わないように、床に蛍光色の案内の矢印を引く等、環境整備にも気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を中心にした献立にしており、朝、夕のテレビ体操、掃除等の生活リハで予防に取り組んでいます。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間帯は決めています。入浴時間は本人の意思を尊重しています。	夏は週三回の入浴となっている。同性介助を基本とし、利用者同士も性別に配慮し、入浴の順番等を工夫している。入浴後の保湿には特に留意し、必ずクリームを使用して皮膚のトラブルを防ぎ、入浴を心地良く感じられるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠していただくように、日中リース作りや生活リハをしていただくようにしています。休憩は、入居者のその日の状態、気候などを考慮して適宜していただくように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者には服薬時、説明をし、各自の服薬表を、ファイルして、職員がいつでも確認できる場所に保管しています。また、薬の変更があり状態の変化がみられる場合は、主治医に相談し、バイタルチェックをこまめに行うなどしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハを行うときは、できることできないことを把握して、一人ひとりができることを役割分担しています。また、日頃の観察から、入居者の状態に合った、楽しみごとを提供できるように支援しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候を考慮して可能な限り、入居者同士の話題作りのために全員で外出する機会を設けています。また、状態の良い入居者は、買い物、散歩などを頻繁に行うなどの個別対応をしています。気候の良いときは、少しの時間を利用して避難訓練を兼ねて庭を散策するように心がけています。	出来るだけ全員での外出を企画、利用者の多くが好物であるラーメンやギョウザを食べに出掛ける事を毎月の恒例にしている。近隣の美容院にも月に一度数人ずつ車で出かけている。その他、弁当持参で折々の花々を見に行ったり、紅葉狩り、ブドウ狩り、初もうでなど季節を感じられる行事を組み入れている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	美容室等に行ったときなどは、職員が介助しながら、本人にお支払いいただくようにしています。また、パンの訪問販売車が来たときは、好きな物を選んで買っていただいたりしています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	元旦は、入居者全員が、家族と新年のあいさつをできるように電話して、その他の場合でも家族との電話は、必ず本人に代わって会話をさせていただけるよう支援しています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、入居者が不快や混乱をまねかないように備品の配置を考慮し、また、気分転換に外気浴ができるようにベランダを活用し、夏場は、すだれで快適に利用できるようにするなど季節を感じられる工夫をして、居心地よく過ごせるようにしています。	リビングはこじんまりと清潔に整えられ、手作りの季節の品々や熱帯魚の水槽も置かれている。利用者はリース作りなどしながら、日中の殆どの時間をそこで過ごしている。長く勤務している職員が多く、全体的に家庭的な雰囲気が漂っている。庭に出ると飼育しているチャボもいて、利用者の心を和ませる事にも繋がっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとダイニングキッチンにそれぞれ、イスがあるので、1人ひとりが思い思いに過ごせるようになっています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	所持品を持ちこまれている方は少ないのですが、観葉植物を置いたり、リースの壁飾りをする、窓のから野菜、果物の成長を楽しめるようにするなど、居心地よく過ごせるような工夫をしています。また、一人ひとりの状態に合わせてベッドの配置を変えたり、必要に応じて手すりを取り付けるなど安全面も考慮しています。	備え付けのベッドとクローゼットの周囲に利用者が持ち込んだ馴染の物が、個々の好みや状態に合わせて置かれ、画一的ではない居室になっている。所持品や衣類が多くない場合でも、支援の品々も利用し、全体の調和が取れるよう配慮もしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを各所に設け、なるべく見守りで自立歩行をしていただいています。他にも、トイレに大きな標識をして、トイレの場所を覚えていただくようにしています。		